

「太平山歴史散策」 解説

1 太平山の名物

もともとの名物はゆずで、ゆずを使ったゆずようかんやゆずもち菓子が、いつの間にか名物料理の卵焼きや焼き鳥、だんごに変わってしまいました。

【焼き鳥と卵焼き】

夜鳴きするにわとりは不吉の知らせ(火事や災難を招く)という言い伝えがあるので、昔の人は夜鳴きするにわとりを太平山神社におさめました。このにわとりはお参りに来る人々が神社にお供えした「おさご」(洗った米)を食べ、神社の周りの林の中でふえました。

そこで、産まれる卵を卵焼きに、たくさんふえたにわたりの肉を焼き鳥にして功德(神様が人間に与える恵み、ご利益)したのが、現在の名物として残っているといわれています。



【太平だんご】

太平山神社にお参りに来る人々がおさめた「おさご」を粉にして作って功德したのが、太平だんごの始まりといわれています。



2 太平山に植物の種類が多いのはなぜ？

太平山はサクラの名所として有名です。遊覧道路や謙信平のソメイヨシノ、太山寺のシダレザクラが咲く頃は、花見の人たちでにぎわいます。また、5月にはヤマツツジが、6月から7月にかけては表参道(あじさい坂)のアジサイが見事です。夏には緑が、秋には紅葉がきれいで多くの方が訪れます。この太平山は栃木県でも植物の種類が多く、めずらしいものがたくさんあります。

なぜ、太平山は植物の種類が多いのでしょうか。

太平山にある少年自然の家(標高200m)で調べた1年間の平均気温は14.2℃だそうです。13~14℃は寒い地方でよく育つ寒地性植物と暖かい地方でよく育つ暖地性植物が入り替わるちょうど境界線なので、両方の植物が入りまじってはえています。

1 おおひらさんじんじゃ 太平山神社

877年、慈覚大師（円仁）により建てられた神社といわれ、古くから多くの人々がお参りをした神社です。

太平山は、「神鎮まる（神様がいる）山」として、たくさんの神社やお堂（お寺）が建てられました。（昔は神社の周りや山の中に、神社やお寺が約80ほどありました。）

そのため今でも太平山神社と関係の深い神社がたくさん太平山には残っていて、交通安全、安産、豊作などのたくさんの神様が祀られています。

2 ずいしんもん 随神門

随神門は、1723年に建てられた門です。

随神門とは、神社に悪霊（悪い霊）が入るのを防ぐ門番の神様がいてる門という意味です。



3 みけんざか 眉剣坂

1585年に北条氏の軍が攻め登ってきたときに、皆川勢が必死に戦った場所です。また、その昔、このあたりで歌垣（多くの男女が集まり、歌をよみかわし、踊り楽しんで求婚すること）をしたそうです。眉剣坂に立っている鳥居を縁結びの鳥居とよんでいます。



4 けんしんだいら 謙信平

1570年に越後の上杉謙信と小田原の北条氏康が大中寺で和議（仲直りの相談）を結んだ時、上杉謙信がこの太平山に登って、南に広がる関東平野をながめ、目を見張ったといわれています。

この謙信平は、明治15年に公園地（第一公園）として整備され、今見られるような茶店が建ち並びました。

よく晴れた日には、東京の高層ビルや富士山を見ることができま



【謙信平から富士山を望む】

5 しんきょう 神橋

「このところに深く大きな谷があり、水の勢いがはげしく、皆山を登れずに困っていた。慈覚大師が太平山を開くためにこのところへ来たとき、途方にくれていると、そこへ突然、大蛇が現れて淵の上にかかり、それが山菅（ヤブランという植物）となって大師を渡した。」という神蛇伝説があります。

今の神橋は明治時代に架け替えられたものです。
※今はありません。



6 ろっかくどう 六角堂

京都の古刹頂法寺の六角堂をまねて作ったもので、同じ時代の建物としてはほとんど例を見ない造りになっています。正式には太平山連祥院般若寺といい、天台宗のお寺です。

827年に慈覚大師が太平山を開いたときに作った寺で、虚空蔵菩薩がまつてあります。

明治時代には太平山の旭岳（今の太平少年自然の家のところ）に仮堂を立てて移転した時もあったそうです。



7 あじさい坂

あじさい坂は、太平山神社の参道1000段の石畳の両側に2500株のアジサイが植えられています。これらのアジサイは昭和49年に栃木ライオンズクラブによって植えられたものです。平成8年には、「あじさい坂のアマガエルの声」が、環境庁の残したい『日本の音風景100選』に選ばれました。

8 窟神社



あじさい坂を登っていくと、途中に窟神社があります。この窟神社は銭洗弁財天をまつた神社で、洞窟からパワーがもらえるパワースポットといわれています。

9 綾川五郎次の受留めの石

綾川五郎次は栃木市の生んだ名力士で、江戸時代中期の2代目横綱になった人です。本名は綾川林石衛門。園部町の出身といわれています。墓は市内の定願寺にあります。

この石には、次のような伝説があります。

若いとき力士を志した五郎次が「我に力を授けたまえ」と21日間、太平山神社に参拝したとき、参道を登っていくと、山の上から大きな石が落ちてきました。五郎次は逃げることもできず「南無太平大権現」と心に念じながら、転げ落ちてきた石を両手で受け止め、目よりも高く持ち上げ、かたわらの空き地に投げ捨てたそうです。



10 田村律之助翁の像

1863年に大平町水代に生まれました。栃木県の農業に力をいれ、栃木県をビール麦の生産日本一の座につかせた人です。また養蚕にも目を向け、蚕業伝習所を設け、栃木県の蚕業の発展に貢献しました。



11 山本有三の文学碑



「たったひとりしかいない自分を
たった一度しかない一生を
ほんとうにいかさなかつたら
人間生まれてきたかいがないじゃないか」

栃木市の生んだ文豪山本有三の小説「路傍の石」の一節です。

本名は勇三、1887年(明治20年)に栃木市で生まれました。実家は呉服屋を営んでいました。

東京大学卒業後、「波」「女の一生」「真実一路」「路傍の石」など、数々の小説を残しています。

1946年(昭和21年)貴族院議員に、昭和22~28年参議院議員として活躍しました。栃木市の名誉市民でもありましたが、昭和49年86歳でなくなりました。